

中国は北朝鮮の潜水艦発射弾道ミサイル開発を支援したか？

漢和防務評論 20161230 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

最近米国の一部の研究者が北朝鮮潜水艦の発射した弾道ミサイルは中国の JL-1 型潜水艦発射ミサイルに似ており、中国が開発を支援したと発表しました。これに対し漢和防務評論はあり得ないとしています。

従来中国の対北朝鮮政策は、過去の歴史と政治体制などから言うことのきかない弟ぐらいに見ており、助けを求められれば、最小限の支援はする、との立場でした。しかし最近の北朝鮮の唯我独尊ぶりに自国の戦略環境が破壊される可能性が出てきた中国は、現在北朝鮮政策を見直しつつあります。つまり地政学的な関係は如何ともしがたいが、その他は普通の隣国として扱う、核開発は許さないとの方向になりそうです。

私見ですが、トランプ大統領の対中政策によっては、中国の対北朝鮮政策が変わる可能性があると思います。中国が米国に対し北朝鮮カードを使いたいと思う可能性がないとは言えないからです。

KDR 東京平可夫特電：

米国の一部の研究者は：北朝鮮の”北極星系潜水艦発射弾道ミサイル”(SLBM)は、大きさ、外形、使用する固体燃料等々の特徴から、中国技術者の支援を受けた可能性がある。このミサイルは中国の JL-1 型 SLBM の北朝鮮版である、と述べた。韓国メディアは、これらの報道を引用するとともに、韓国の軍事技術専門家もこれを認めた。

KDR は、北朝鮮及び中国関連の研究において、双方の基本的な外交政策及び政治、経済関係を含め多くの知識を累積しており、その上で双方の軍事外交を分析してきた。その上で **KDR** は、従来から武器の外形や大きさが似ているだけで中朝間に軍事協力関係があると断定する一部米国学者の研究結果に反対してきた。軍事問題の研究の結論は、説得力のある直接の証拠が必要であり、そうして初めて妥当な結論と言える。

KDR は、中国が北朝鮮の核兵器、弾道ミサイルの開発を支援することは不可能である、と考える。それと同時に、中国国内の厳格な管理状況を鑑みれば、中国と 1990 年代初期のロシアの状況とは完全に異なり、中国情報機関は、北朝鮮スパイが中国でリタイアした中国の核兵器や地対地ミサイルの専門家を募集し、個人の身分で北朝鮮に赴かせ、北朝鮮の核兵器、弾道ミサイル開発を支援させることなど許すはずがない。このように当時のロシアの状況とは完全に異なる。

全くその逆である。中国の戦略学者は、最近行われたある内部講座において、中国と北朝鮮金正恩政権との政治的関係について講話を行った。KDRはこの講座の書面文献を入手した。この学者は外交部門出身で、中国外交部が制定する対北朝鮮政策に対して相当大きな影響力を持っている。談話内容を見る限り、中国と金正恩政権の関係は相当冷却している。中国は外交面でもはや”抗美援朝”政策を採ることはない！

この講座において、中国の外交戦略専門家は：中国自身、朝鮮核問題では考え方も役割も逐次変化している。中朝両国の外交部門が初めて挙行した戦略対話においては、”抗美援朝”の用語から”朝鮮戦争”の用語表現に変わった。このことは中国が中朝関係において歴史と思想の束縛から離脱したことを示す。これが今後逐次両国関係を処理する基本原則になる、と述べた。

朝鮮経済の後進性と閉鎖性に外部からの経済制裁が直接加わっている。朝鮮は、富める東南アジアの中で、GDPが世界有数の周辺国家に囲まれ、実情に合わない”強盛大国”を目標に国内経済を発展させようとしている。金正恩が委員長に就任後、一度は朝鮮経済改革の信号を出したが、改革そのものが体制安定を壊す危険がある可能性を考慮し、朝鮮は”核開発と経済開発の並行路線”を選択した。

中国の外交及び戦略学者は：”二つを同時に得ることは不可能”すなわち核武装と経済は両立せず、と見ている。朝鮮の核開発は経済発展のための資金を食っている。朝鮮は、”核開発と経済建設の並行路線”を推進している。朝鮮は、核保有問題で国際協力を拒絶し、対外関係の緊張を招き、国際政治環境を悪化させ、開発区域の運営及び国内経済発展をますます困難にしている。朝鮮の”核開発と経済開発の並行路線”政策は、相互に矛盾し、”強盛大国”の願望実現をはるかに遠ざけている。

朝鮮の核実験場は、中国国境からわずか98KMにある。新たに投入されるミサイルの発射基地は中国の丹東市から48KMにある。一旦、朝鮮の核実験或いはミサイル発射で事故が発生すると、地下水、地表面の土壌、空気が汚染される。中国の隣接地区も厳しい汚染を受ける。

朝鮮の核保有戦略は、中国の平和発展路線の障害となり、中国の平和発展に必要な安定、平和的戦略環境を破壊し、その結果中国の対朝鮮政策は変更を迫られることになる。

(朝鮮の)繰り返し行われる核威嚇は、中国の平和発展戦略環境を破壊し、中国の国家安全利益の脅威となる。現在の中朝関係の特徴は：政治的には、朝鮮は困難に陥るたびに、自ら中国に接近して、中国に支援を求める。しかし困難が去ると、中国”カード”(切り札)を使ったことに対して、中国の利益と感情を無視し、中国をしばしば混乱に陥れる。

朝鮮のこの唯我独尊的行為は、中朝関係の健康な発展を阻害する。中国は、対朝鮮関係を客観的に見なければならない。朝鮮に対する人道援助は、“有償援助”と“指向援助”に限られるべきであり、対朝鮮援助が核開発に転用されてはならない。特別の支出口座を作り、大量の物資が行方不明にならないよう、提供した金銭、物資が核戦略に転用されないよう、監督部門が随時調査し、定期的に物資の支出データを公表しなければならない。

中国は先軍政治に反対する

同講座で、中国の学者は：朝鮮問題は中国の安全戦略に大きな影響をもたらし、中国の核心利益に影響を与える。朝鮮の核保有は、東北アジアの安全枠組に対する重大な挑戦であり、東南アジアのその他の国家を核開発路線に走らせ、中国は核保有国家に取り囲まれることになる。もし朝鮮が最終的に核保有国家になった場合、中国の国家安全及び東北アジアの平和と安定が重大な脅威を受ける。朝鮮に対する中国の立場は、第一に核兵器開発に反対であり、“先軍政治”にも反対である、と述べた。

周知のとおり、公的には、中国外交部は金正恩を名指しで批判してはいない。上述の講座での先軍政治の問題に対する外交、国防系統内部の批判は、相当激烈であり、直接金正恩を名指しで批判した。このような事態は今まであまり見られなかった。

以上